



『銀河鉄道999』『宇宙戦艦ヤマト』など
昭和50年代のアニメブームの原点ともいえる作品を描いた
松本零士さんの少年期の話が聴けるインタビューやアニメ作品を見ることが
できる左ページ上／エントランスで等身大のハーロックフィギュアとメーテル
がお出迎え
下／5万冊の漫画が読み放題の閲覧ゾーン

獨創性とクオリティが評価され、国内のみならず海外でも高い人気を誇る日本の漫画やアニメ。子どもだけでなく大人も虜にする魅力にあふれています。

漫画家への夢がかなう エネルギーにあふれた街

今、海外からもクールジャパンとして注目を集める漫画家たちを多数輩出している北九州市。その背景は、明治時代にまでさかのぼり、「官営八幡製鐵所」が設立されて、いろいろな地方から人が集まり、文化が交流したことに始まります。門司港が国際貿易港として栄えたことで、外国との交流も盛んになり、国内外から様々な物と情報が入ってきました。そして、経済の発展とともに、人々の心にゆとりが生まれ、文化への関心が高くなります。

戦後の北九州市は、貸本屋や映画館の数が全国でも多い地域で、娯楽や芸術文化が育つ環境が整っていました。加えて、製鉄所や工場の風景は、創作の糧となり、この街ならではの作家や作品が生まれていきました。『銀河鉄道999』で知られる松本



漫画

21

多数の漫画家を
輩出してきた北九州
クールジャパンの殿堂
北九州漫画ミュージアム

零士さん、「ハートカクテル」など
透明感のあるおしゃやかな作風が一世
を風靡したわたせせいぞうさん、東
アジアを中心に世界中で愛される
『シティーハンター』の北条司さん、
「おとめチックブーム」の立役者・
陸奥A子さんなど。
世代を超えて愛される才能の数々。
「北九州漫画ミュージアム」は、
漫画を心ゆくまで堪能しながら、漫
画家たちが夢をかなえていった、こ
の街のエネルギーマンにふれるドラマ
ティックな場所なのです。



街が舞台になることも
ホールで聴く
観るだけではない
音楽 演劇を
日常で愉しむ街

音楽と演劇



上／まちかどコーラス
下／北九州芸術劇場

「合唱の街・北九州」という新たな
キャッチフレーズを掲げ、合唱を通
じた街づくり、人づくりに取り組む
北九州市。すでに、多くのコーラス
グループが活動していますが、さら
に、子どもからシニアまで幅広く合
唱に触れるために、JR小倉駅など
での「まちかどコーラス」も始まり
ました。

ほかにも、團伊玖磨氏作曲のふるさ
と讃歌「合唱組曲「北九州」」を歌
い継ぐコンサートや、市民による本
格的オペラ公演、中学生による合唱
フェスティバルなど、様々な取り組
みが行われています。



合唱以外でも、今秋30回目を迎える
「北九州国際音楽祭」、西日本最大級
のパイプオルガンを有する「北九州
ソレイユホール」、すぐれた音響を
持つ音楽専用ホール「北九州市立響
ホール」など、北九州市は、音楽を
とても愛する街です。

芸術のバトン

一方、演劇の世界に目を向ければ、
戦後すぐに発足し、70年もの歴史を
持つ「劇団青春座」をはじめ、いま
北九州を拠点に活動する劇団は約30
を数えます。

演劇文化の豊かな土壌が、平成5年
から始まった「北九州演劇祭」（平
成19年で終了）、平成15年にオーブ
ンした「北九州芸術劇場」へと、バ
トンをつなげていきました。
芸術劇場のミッションは、「創る」、
「育つ」、「観る」、「支える」。「創る」
においては、劇場自らのプロデュー
スにより、様々な劇作家による北九
州を題材とした公演を手がけている
ほか、モノレールの中や且過市場の
路上など、ホールを飛び出し、常に
新しいことに挑戦しています。



上/エドガー・ドガ《マネとマネ夫人像》(北九州市立美術館蔵)
 上左/葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》(北九州市立美術館蔵)
 左/青木繁《天平婦人》(直方谷尾美術館蔵)

戸畑の丘の上に立つ、構造が印象的な「北九州市立美術館」は、建築家磯崎新による設計で昭和49年に開館して以来、北九州市のアートの拠点となってきました。平成15年には小倉の街中にある、「リバーウォーク北九州」に分館がオープンし、気軽に立ち寄れる美術館として人気を集めています。

収蔵品は印象派から現代アートまで幅広く、また注目したいのはドガの初期代表作『マネとマネ夫人像』。個人的に交流があったドガとマネは、あるとき絵画を交換し、このときドガが贈ったのがこの絵。ところがマネは、描かれた夫人の顔が気に入らなかつたのか、顔のあたりから切り取ってしまいます。怒ったドガが絵を取り返し、修復するつもりでキャンバスを継ぎ足しますが、結局顔は描かれないままでした。また浮世絵は約1300点におよぶもの。歌川広重、葛飾北斎、喜多川歌麿、月岡芳年など、九州大学の国文学者だった田村專一のコレクションが没後に一括寄贈されました。

青木繁の作品も

直方市の「直方谷尾美術館（直方市美術館）」では、『海の幸』で知られる青木繁の『天平婦人』や、地元出身の山喜多二郎太の作品など、九州ゆかりの作品に出会えます。

23

アート

ドガや青木繁の
 個性的な名画に出会う
 美術館があります

フィルムコミッション

「映画の街」へという思い
今、スクリーンに映っている
その風景はもしかすると

24

北九州市は「映画の街」としての顔ももっています。

市は平成元年より全国に向けて映画やドラマ等の撮影誘致と支援に取り組み、平成12年には「北九州フィルム・コミッション」（以下KFC）を設立。これまで240本以上の作品を手がけてきました。

爆破にハイジャックさえ

KFCの活動内容は、監督や製作会社のロケーション撮影に関するあらゆる要望に応えるだけでなく、各方面との調整、許可手続きをサポートし、ロケ地域の住民への事前告知、エキストラの募集など多岐に渡ります。絵になるロケーションはもちろ

んのこと、街中での爆破、空港でのハイジャックシーンなど他都市では撮影が難しい大規模ロケ協力への先駆的取り組み、そして、「365日24時間」をモットーにした丁寧な撮影支援も北九州市に魅力ある多くの作品を呼び込んでいる理由です。「映画撮影はお祭り」。KFCのスタッフはこう口をそろえます。

その根底にあるもの

平成29年公開の映画「相棒―劇場版IV―」のロケでは過去最大規模となる3000人のエキストラを集め、小倉小文字通りを300メートルに渡り日中12時間通行止めにして行われました。まさにお祭りさな

がらの熱気と一体感のなか撮影は大成功。地元北九州市民の映画づくりに対する熱い姿勢は、製造業の街として発展してきた土地柄です。「もづくり」に対して共鳴する人が多く、また、市内各所で行われる祇園山笠をはじめ「祭り好き」気質が根底にあります。

海外の作品誘致にも力を入れ、歴史的にもつながりの深い周辺エリアとの連携を取りながらの誘致。近代化をはじめとする、他にない風景を持ち合わせているからこそできることがあります。新たな文化として根付いた「映画づくり」という祭り。今、スクリーンの中に映るその風景は、「北の九州」の市町かもしれません。



上／映画「図書館戦争」のロケ
下／道路を封鎖して行われた映画「相棒-劇場版Ⅳ-」のロケ



香春岳

万葉集にも詠まれた
穏やかな山は
鮮烈に記憶に残る山と
なりました

約1億年前、平尾台の西にあった結晶質石灰岩でできた山が大きな断層で切られ、南に約7キロメートルも動きました。その山が、香春町の香春岳です。三連で構成され、地元では一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳と呼び、炭坑節で『ひとやま ふたやま みやま越え』と歌われているのは、この香春岳のこと。

三ノ岳は奈良時代より銅の採掘が行われ、その銅は、奈良の大仏の鑄造にも用いられました。大正4年（1915）の開業時のまま駅舎が保存されている、JR日田彦山線採銅所駅の名が歴史を物語ります。

歌に詠まれ、小説となり

豊国の 香春は我家
紐の尻に いつがり居れば
香春は我家

抜気大首（万葉集・巻9・1767）

奈良へと通じる大宰府官道の田河道が通っていた交通の要所でもあったからでしょうか。『万葉集』の中に、香春を詠んだ歌が7首あります。

香春は、いつの時代も歌に、俳句にと詠まれ、その情景には穏やかな香春の山がありました。

しかし、昭和初期からは、黒ダイヤと呼ばれた石灰石に対し、白ダイヤとよばれた石灰石採掘のために、標高500メートルに近かった一ノ岳の削られた山肌は、麓の工場でセメントへと姿を変えていきます。作家の五木寛之氏が昭和44年から断続的に連載している『青春の門』の冒頭は、あまりにも鮮烈でした。

「香春岳は異様な山である。決して高い山ではないが、そのあたえる印象が異様なのだ。」

（中略）

雲の低くたれこめた暗い日など、それは膿んで崩れた大地のおどきのような印象を見る者にあたえる。それでいて、なぜかこちら側の気持ちに強く突き刺さってくる奇怪な魅力がその山容にはあるようだ。目をそむけたくなくなるような無気味なものと、いやでも振り返ってみずにはいられないような何かがからみあって、香春岳のその異様な印象を合成しているのかもしれない。（『青春の門』・筑豊編）

『青春の門』再び

太平洋戦争真ただ中の昭和時代、筑豊の炭鉱町に生まれた青年、伊吹信介が、生きる目的を探しながら苦闘する姿を描き続けた『青春の門』。ベストセラーとなり、豪華俳優陣で映画やドラマにもなりながら、「第八部 風雲篇」の昭和36年のシーンで中断し、未完のままでした。平成29年1月、待望の完結編が、連載を再開。物語の終わりで故郷に戻ってくるまでを書き切りたという五木寛之氏。香春岳が、主人公の目に映る日が来るのか、その日が待たれます。

平尾台

永い時がつくった台地の造形
希少な植物や生き物の観察も
楽しみのひとつです

26



石灰岩の台地は 3億年前の珊瑚礁

「平尾台」は北九州市小倉南区、行橋市、香春町、菊田町、みやこ町の2市3町に跨り、およそ12平方キロメートルの結晶質石灰岩からなるカルスト台地。山口県の秋吉台や四国カルストとともに日本三大カルストのひとつとして、北九州国定公園や国の天然記念物に指定されています。

約3億年前の古生代の石炭紀からペルム紀にかけ、温暖な南の海に堆積した石灰岩の元となる珊瑚礁が、大陸のプレート移動により今の位置へ動いてきたと考えられ、その後、地殻変動によるマグマの熱によって結晶質石灰岩に変化しました。そして、地表近くまで隆起し、雨水や地下水によって溶食作用を受け、その溶け残った岩の柱「ピナクル」の白く丸みを帯びた形が、草原で遊ぶ羊の群れに見えることから「羊群原ようぐんばら」と呼ばれる大パノラマが、ビューポイントの茶ヶ床園地から一望できます。

400〜600メートルの起伏に富んだ台地は、吹上峠、茶ヶ床周辺、三笠台から千貫岩の周辺と独特の地



右／平尾台 左上／広谷湿原
下／羊群原の中を駆け抜ける「平尾台クロスカントリー」

形が続き、何度訪れても飽きることはありません。

地質ごとに違った植物や昆虫が観察でき、それらが希少であることも、平尾台歩きの魅力。早春には風物詩の野焼きが行われ、しばらくすると黒々とした大地に新芽が芽吹きはじめます。

一面、絨毯じゅうたんのような新緑で覆われてゆく平尾台。目をこらせば見えてくる可憐な植物や生き物には、環境庁のレッドデータブックに掲載された絶滅危惧種も少なくありません。中でも、菟田町に位置する「広谷湿原」は、モウセンゴケ、トキソウ、サギソウなどが自生する県内唯一の貴重な湿原です。ノハナシヨウブなど、野生種本来の美しさに魅了された人びとが、咲く季節を待って足を運ぶ名所となっています。

そのかけがえのない自然を体感し、共存するスタイルで、クロスカントリーやトレイルランニングの大会も人気の平尾台。何億年もの時がつくった地形の中を走り抜けるコースは他に例がなく、レース後は自然への畏敬の念が生まれるとか。

平尾台の楽しみ方は無限大です。

鍾乳洞

27

観光鍾乳洞に
ガイド付きのケイビング
地底のワンダーランドへ

左ページ上／「千仏鍾乳洞」の見所のひとつである「初音乳」
下／入口から900メートルほど進むと「地獄トンネル」と
呼ばれている洞穴があり、先は照明がなく
探検するには懐中電灯が必要
ガイドの案内で進むケイビングの様子

地底の「時」を楽しむ

平尾台には、石灰岩が地表水、地下水などによって数億年の時を経て侵食されてできた鍾乳洞が、2000ヶ所あまりあるといわれていますが、3つの観光鍾乳洞があります。

その一つ「目白洞」には、日本最大級の20メートルあまりの一枚岩の鍾乳石があります。また、「牡鹿洞」は通称「恐竜の落とし穴」と呼ばれ、入口部分が堅穴の鍾乳洞で25メートル降りると地下川タイプの横穴に続き、カルストの内部がよくわかります。牡鹿洞からは、ニホンカワウソ、ムカシニホンジカなどの化石が見つかっています。

国の天然記念物に指定されている「千仏鍾乳洞」は、大正10年（1921）、京都郡椿市村（現在の行橋市）の村長だった大石高平氏が私財を投げ打って5年の歳月をかけて進入路と入り口を整備し、開洞した鍾乳洞です。洞内は四季を通じて気温約16度、水温約14度で、夏は涼しく、冬は暖か。480メートルから先は地下の小川の中を歩いていくので、ちょっとした探検気分です。

一方、苅田町の「青龍窟」は昭和37年に国の天然記念物に指定された、全長約2キロメートルの平尾台最大規模の鍾乳洞です。昭和51年には、ナウマンゾウの頭蓋骨化石が出土しました。

普智山ふちさん等覚寺とくかくじの奥の院、修験道の修行場で、洞窟内に住んでいた土蜘蛛を景行天皇が退治したという伝説があり、『筑豊名蹟残記』には「土蜘蛛の住みし岩屋の奥までも誰が移したる仏なりけむ」と記されています。

観光鍾乳洞ではないため、照明の設置などの観光化はされていませんが、「平尾台自然観察センター」などが定期的に探検ツアーを開催しているほか、「平尾台自然の郷」では、本格的な洞窟探検（ケイビング）ガイドの申し込みも受け付けています。暗闇の迷路のような地底をヘルメットとヘッドライトを装着して進みながら、何万年、何十万年前のままだに残された大自然を体感することができます。



山遊びの最中に見つけた
小さな化石がやがて

昭和49年のこと。北九州市の旧山田
弾薬庫跡地（現在の山田緑地）で小
学生が小さな魚の化石を見つけた。それは世界的にも珍しい「デイ
プロミスタス」と呼ばれる白亜紀の
淡水魚類。「小学生が貴重な化石を発
見」というニュースは市を動かし、
大規模な発掘調査を実施した結果
新たに2種の魚の化石が新種記載さ
れたのです。それらを保存、研究し、
公開するためつくられたのが「北九
州市立自然史博物館」です。その後
歴史・考古博物館と統合し、現在の「北
九州市立自然史・歴史博物館」通称「い
のちのたび博物館」となりました。

35メートルの骨格標本
平成14年にオープンした、いのちの
たび博物館は、大々的なリニューアル
を経て、現在年間約47万人が訪れ
る九州屈指の博物館になりました。
46億年前の地球誕生から現代に至る、
自然と人間の「いのち」の歩みを3
つのゾーンに分けて紹介しています。
なかでも見どころは恐竜。

28

自然史と 博物館

小学生の世紀の発見から
自然史研究の一大拠点が
誕生しました



全長約35メートルの「セイスモサウルス」や、子どもたちに特に人気の「ティラノサウルス・レックス」など巨大恐竜の骨格が、今にも動き出しそうな躍動感で迫る「アースモール」は圧巻です。

「エンバイラマ館」では、学術的裏付けで再現した動く恐竜ジオラマがあり、太古へとタイムスリップするかのようです。

青龍窟のナウマンゾウも

約200万年前に形成された九州島の生い立ちなどを詳しく紹介する「リサーチゾーン」は、身近で刺激的な発見にあふれています。

山田緑地はじめ、地質が独特の北九州市とその周辺から産出した化石遺物、平尾台の青龍窟（荊田町）で見つかったナウマンゾウの化石も。郷土の展示物が豊富であることが、いのちのたび博物館の魅力です。

小学生の小さな化石の発見から大人たちが突き動かされて誕生した「いのち」の一大テーマパーク。こどもも大人も夢中になる空間です。



ご当地キャラ

29

大活躍のご当地キャラいろいろ
みんなしつかりと
ふるさとの物語を
しよつてます

とばた宣隊ちようちんジャー

戸畑区のイメージアップを担う三人組
「よいとくん」は戸畑祇園、「アヤメン」
は戸畑区の花「あやめ」、「ポンちゃん」は、
戸畑ちゃんぽんがモチーフです。



ポンちゃん よいとくん アヤメン

● 行橋市
こもちゃん

行橋市の夏祭り「こすもっぺ」を盛り
上げるスター的存在のアヒル。「ガク吉」
「ビッピ」などとともに「こもちゃん一座」
として愛されています。



● 豊前市

くぼてんと「きょうじん」

求菩提（くぼて）山に住む「くぼてん」、
経読（きょうよみ）岳に住む「きょうこ」
と、カラス天狗のカップルです。「くぼて
ん」の年齢はなんと400歳以上！



● 中間市

なかつぱ

シャイですが、人懐っこい性格で「ぬん」
が口癖です。極めて川筋気質で、竹を割つ
たような性格ですが、誰からも注目され
ずにいた期間が長かったので、やや怠け
者でひねくれているところがあります。



小倉城のマスコットとらっっちゃ

天守閣に展示している「迎え虎」「送り虎」
の絵が元になったキャラクター。兜から
はみ出すほど大きな頭と小笠原家の家紋・
三階菱の額の模様がチャームポイント。



わかっぱ

若松特産のトマトが好物のため体が赤色。
JAZZを聞きながらお茶を飲むのが趣
味で、同地出身の小説家、火野葦平をこ
よなく愛する読書好きでもあります。



● 北九州市

ていたん&ブラックていたん

北九州市の環境マスコットキャラクター。
鼻と口で「エコ」を表し、北九州市の花・
ひまわりの入ったバンダナをつけて、日々
環境未来都市・北九州市のPRに努めて
います。



● 直方市

焼きスパマン

直方のご当地グルメ「焼きスパ」を広め
るために誕生。直方のNを胸に掲げ、頭
には焼きスパがたっぷり。赤いマントも
トレードマークです。口癖は「スーパ
ーうまい！」。



● 宮若市

宮若追出し猫「やぐら」

宮若市・西福寺ゆかりの縁起物。表は、ほうきを持ってギョロリ、裏は手を招いてニッコリと、災いを退散させ幸福を招く、表裏一体の招き猫です。



● 芦屋町
アツシー

「芦屋釜」をモチーフにした頭には、特産の「あしやんいか」をあしらっています。芦屋釜が製造されていた時代から400年以上歳を重ねた芦屋釜の妖精なので、お茶を点てることが特技で、気の長いおやかな性格です。



● 水巻町
はかりちゃん

水巻町の健康づくりPRキャラクター。特技は「はかる」ことで、口癖は「はかっとう?」。いつもノリノリ乗せ上手。ちょっとおせっかいな性格です。



● 岡垣町

びわりん&びわすけ

岡垣町町制50周年を記念し平成24年に誕生しました。福岡県下1位の出荷量を誇るびわがモチーフで、愛嬌のある顔と丸いフォルムがキュート。



● 遠賀町

おんがっぴー

遠賀町のマスコットキャラクター。「おんがっぴー」「おんがっぴー」が名前の由来です。かわいい笑顔でイベントや町のPRの場で活躍しています。



● 鞍手町

喜楽総帥(きらくそうすい)

鞍手町商工会の青年部が地元名物「きらくソース」のPRキャラクターを考案。シルクハットにマント、ひげもたくわえた総帥らしい堂々たる風格です。



● 香春町

干し柿の精「カッキーくん」

香春で生産されている干し柿の精です。体つきはぷっくりでやわらか。元気で優しい性格で子どもたちやお年寄りにも大人気です。



● 荇田町
豊玉姫

荇田町観光協会キャラクター。豊玉姫伝説が受け継がれる荇田町。ホオリ(山幸)を助け、結ばれた豊玉姫は実は龍で、「青龍窟」で女神に生まれ変わり、「人びとの幸せを守りたい」と言い残り、天にのぼったといわれています。



● みやこ町
みやっこ君

みやこ町に伝わる神楽の衣装をまとい、帽子は県の有形文化財「国分寺三重塔」をイメージ。帽子の先端に触れると幸運が訪れるとか!?



● 上毛町
こうげマン

イラストレーターとしても活躍する上毛町文化財センターの職員が生みの親です。顔に町章の赤、緑、青を取り入れた人型キャラクター。



● 築上町

築上(きづぎ)のぼる

築上町で生まれ育ち、地元を自然をこよなく愛する少年です。顔は雪をモチーフにした輪郭で、「築上」の文字を象っています。





豊前海一粒かきと 豊前本ガニ

30

豊前海の豊かさを象徴する
2大ブランドです

豊かな豊前海が誇る
冬の味覚

豊前海は、多くの河川から山の栄養、ミネラルが流れ込み、干満の差も大きく、魚のエサとなる植物プランクトンが豊富です。多種多様な魚介類を育む、好漁場として知られています。

なかでも「豊前海一粒かき」と「豊前本ガニ」は、豊前海の2大ブランドとして有名です。例年11〜3月には沿岸一帯に「豊前海」の名を掲げた幟がはためき、点在する牡蠣焼き小屋や直売所は海の恵みを求める多くの人で賑わいます。

成長の速さは
栄養分の賜物

北九州市、苅田町、行橋市、豊前市、吉富町、築上町で出荷される「豊前海一粒かき」は、豊前海沖合に浮かぶ牡蠣イカダで養殖されています。広島などの一般的な牡蠣の養殖産地では、ホタテの貝殻に付けた種牡蠣を海中に吊り下げてから約20カ月で育ちますが、豊前海では8カ月ほど。



右ページ／殻いっぱいの乳白色の身が特徴
上／焼くと、丁寧に磨かれた牡蠣殻の美しさがよりわかる

その成長スピードの速さは、豊前海の豊かな栄養分の賜物であり、さらに遠浅で波が穏やかなことも牡蠣の養殖に適していると言えます。成長途中にも頻繁に牡蠣イカダから引き上げ状態を確認し、一つずつ丁寧に磨いて海に戻すなど、手間ひまかけた「豊前海一粒かき」は、ふくよかに身が太り旨味十分。

漁師が手で一粒また一粒

その名前の由来は「漁師が手間隙かけて一粒一粒丁寧に表面の汚れを落とすときれいに磨く」ということから。11月から3月にかけて味わうことができます。

殻付きの活きたまままで全国へと届けられるので鮮度は抜群。ミネラル、ビタミン、必須アミノ酸と、様々な栄養素が多量に含まれているため「海のミルク」と呼ばれる牡蠣の味は、育った海の味だとか。

冬の風物詩、漁港の牡蠣焼き小屋で焼いていただければ、海のミルクと称される芳醇な味わいが磯の香りとともに広がり口福に満たされます。



上右／焼きガニを割るとミソがあらわれる 左／紅色に染まる蒸しガニ
 下右／うみてらす豊前の生け簀と豊前本ガニ 中／地エビ 左／漁師の対面販売
 左ページ／賑わう牡蠣焼き小屋

身とミソの濃厚なる味わい 豊前本ガニ

一方「豊前本ガニ」はワタリガニのことで、100%天然モノです。主にカニカゴ漁や底引き網漁で、秋から冬にかけて脱皮を終えたカニは体が大きくなり身がぎっしり。マコ(卵)を抱えたメスは特に希少で、豪快に甲羅を割って食べるカニミソと卵は、また特別な味わいです。豊前市の「うみてらす豊前」では、地元漁師がさまざまな魚介類を対面販売するブースが人気を博しています。目の前の港に水揚げされ、そのまま店内に並ぶので鮮度も抜群。コウイカ、コシヨウダイやハモ、地エビのシバエビ、ヨシエビなど、豊前海の魚種の多さを改めて実感します。漁師とふれあいながらの対面販売は活気あふれる楽しいひと時。それら極上の海の幸を使った料理が並び、食卓はきつと特別なものになります。



スリッパ隊

スリッパ隊
スリッパ隊

スリッパ隊

スリッパ隊
スリッパ隊



波穏やかで遠浅の豊前海から、流れの早い関門海峡を抜ければ、そこは白砂青松の海岸線が続く、筑前海が広がります。周防灘、響灘と玄界灘という特色がある3つの灘の幸。北の九州には、内海と外海の両方の旬を楽しめる贅沢があります。

灘の幸

周防灘と関門海峡

そして響灘と玄界灘

豊かな魚種と天然もの

31

響灘と玄界灘の漁場に面した
北九州市から芦屋町、岡垣町の海岸線



極上の白身 ハモに天然鯛

福岡でハモを楽しむイメージはまだ少ないものの、北の九州では夏から初冬の脂ののった名残ハモまで、水揚げも盛んです。低脂肪で高タンパク質。話題のオメガ3系のDHAや、良質のコレステロールを含むハモ。丁寧に骨切りされた地物が食べられるのがうれしいところ。また、3つの灘は、天然鯛の良好な漁場です。灘の豊かさを物語る、極上の白身です。

一本二本漁師が釣った「二本槍」

「二本槍」は、福岡県内の漁師が、筑前海で一本一本丁寧に釣り上げた、胴長15センチ以上の活ヤリイカ（ケンサキイカ）のブランド名です。戦国の三英傑に重用され、福岡藩祖となった、黒田官兵衛の二十四騎のひとり、母里太兵衛友信が吞み獲った日本一の槍がその名の由来。玄界灘、響灘の荒波育ちの身は透明で、コリコリとした歯ごたえの後に、甘みが広がります。「酒は吞め吞め」の黒田節のとおり、一献進む「二本槍」。ぜひ、水揚げされる「北の九州」で、ご堪能ください。





響灘の夜明け



脂が美味しいサワラ

全国でも有数の水揚げ量を誇るサワラ。馴染みのある魚ですが、水揚げされたばかりのサワラの刺身から焼きまで、まるごと味わってみてください。刺身は美しい白身のきめ細やかな舌触り。漢字で「鱈」とありますが、秋口からの寒サワラは特に醤油をはじくほど脂がのって、中トロに匹敵するともいわれる美味しさです。芦屋町では、このサワラによるまちおこしも。今、注目の魚です。



筑前海の 貴重な美味 ウニ

筑前海で獲れるウニには、春のムラサキウニ、夏のアカウニ、バフンウニの3種類があり、種類によって漁期が異なります。中でもアカウニは、九州外に出回ることの少ない生ウニの高級品。稚ウニの放流事業にも取り組むほど、今や希少種となっています。大切に味わいたい逸品です。

海士漁 今なお健在 アワビやサザエ

海藻の豊富な筑前海では、それを餌とする極上のサザエやアワビが育ちます。コリコリとした食感の刺身や、焼くと驚くほど柔らかくなるステーキで、まるごと贅沢にいただくアワビ、刺身や壺焼きでいただくサザエ。見事な技でそれらを岩場から引き上げる伝統の素潜りによる海士漁も、今なお健在です。



激流の美味 関門海峡たこ

本州の山口県下関市と九州の福岡県北九州市を隔てる関門海峡で獲れた500グラム以上のマダコを「関門海峡たこ」と呼びます。日本で3番目の激しい潮流に流されないよう、海底の岩にしがみつくことで筋肉が発達した短い足。貝やカニなど餌が豊富な漁場で育つことから、太く身が締まって弾力はあるけども軟らかく、かめばかむほど旨みがあります。たこを傷つけない伝統のたこぼ漁のため、その活きの良さは抜群。食通を唸らせる、知る人ぞ知る北九州市の名物です。



豊かな食材があるから
市場があります

北九州市小倉北区西港町の北九州市中央卸売市場・公設地方卸売市場では、まだ薄暗い早朝から、威勢のいい声とともに、せりが始まります。野菜や果物の青果物と、鮮魚や冷凍魚、干物などの水産加工品が集まる、「北の九州」随一の卸売市場です。さらに、瀬戸内海、周防灘の幸なら行橋市蓑島にある「行橋市魚市場」、響灘、玄界灘の幸なら中間市垣生はぶの「遠賀魚市場」と2つの魚市場があり、市場とまちの距離は、食事処の美味しさにも繋がっています。

北九州市中央卸売市場・公設地方卸売市場は普段は一般のお客さんの入場時間は午前10時ですが、「市民感謝デー」は午前9時から入場できます。行橋市魚市場の「お魚まつり」など、その日獲れたての魚を卸値で買える日があります。ぜひ市場探検を。海に面した市や町に点在する、漁協主催の朝市も見逃せません。近距離でありながら、魚種の違いが楽しめます。

北九州の台所
且過市場

そして、「北九州の台所」と称されるのが、小倉北区の「且過市場」。約180メートル続くアーケードを中心に横道、路地裏も入り組んだ場内には、海産物、肉、野菜、惣菜など100を超える店舗が軒を連ねています。その歴史を紐解くと、発祥は大正時代初期。横を流れる神嶽川かんだがわをのぼる船から荷をあげ商売を始めたのが起源とされ、住宅街も近かったことから自然と市として賑わうようになりました。

新しい風も伝統に

現在の建物は昭和30年代に建て替えられたもの。レトロな看板や、色褪せた手書きの貼り紙、木製の棚にホーローのパッド、裸電球もそのままに、美味が所せましと並ぶ市場を歩けば、美味しそうな匂いと、威勢の良い売り声。小倉弁の温かさに触れながらの対面販売に心弾みます。品ぞろえの豊かさで地元にも人気、近年は観光地として外国人にも人気

です。

市場のちょうど中間に「大學堂」なる名所があります。

北九州市立大学の現役学生が運営し、全国的に話題となったコミュニティ食堂。白ご飯片手に市場内を巡り、好きな食材を盛りつける「大學井」が名物で、刺身をのせてシンプルな海鮮丼にしてもよし、北九州名物の「ぬか炊き」をのせてもよしというアイデア井。学生さんが白ご

飯を手渡すとき、「いってらっしゃい」と笑顔で送り出してくれます。

「大學堂」は、市場内の各店主とともに、「市場の達人講座」や、商品開発なども企画。古き良き市場に吹き込んだ新しい風も、今や名物となり、学生たちの伝統となりました。大通りから一步はいると、一瞬で昭和へとタイムスリップ。且過市場は、今日も賑わっています。

市場

公設卸売市場に朝市
そして且過市場
地の利がつくる食の賑わい



左ページ右上／店先に並ぶぬか炊き
右下／珍しいものから定番まで、あらゆる食材がそろう
左上／名物「大學井」の盛りつけ風景
左下／大學堂



33

海岸線

海水浴にサーフィン
三里松原海岸を走る
サイクリングロード

「北の九州」には、2本のサイクリングロードがあります。

敷石には、ハートの形がこっそりとあります。

「直方北九州自転車道線」は、直方市溝掘を起点とし、北九州市若松区安屋を終点とする延長34.6キロメートル、「遠賀宗像自転車道線」は、遠賀町を起点とし、宗像市を終点とする延長33.9キロメートル。いずれも、海岸線や遠賀川の自然地形に沿った見通しのいい道を走る、快適なサイクリングロードです。

白砂青松とウミガメ

遠賀宗像自転車道線の途中にある芦屋町の「夏井ヶ浜はまゆう公園」は、「福岡タワー」、門司港レトロのはね橋「ブルーウィングもじ」に次いで福岡県で3番目に認定された「恋人の聖地」。展望園地の

岡垣町と芦屋町の「三里松原海岸」は玄海国定公園の一部で、日本の白砂青松100選にも選ばれている景勝地。サーフィンのメッカとしても知られ、遮るものがない響灘の波が気に入る、移り住む人もいるとか。また、アカウミガメも産卵に訪れ、晩夏には子ガメが海に帰る神秘的な光景が広がります。環境省の「快水浴場百選」に選ばれている「波津海水浴場」は浅瀬で水質も良好。受け継ぐ宝ものがいっぱい海岸線です。



上／芦屋町の「レジャープールアクアシアン」や岡垣町の「観光ステーション北斗七星」にあるレンタサイクルで潮風を感じながらのサイクリング
左ページ上／隣の芦屋海水浴場へ自由に行き来できる「レジャープールアクアシアン」
下／サーファーたちに人気の波津海岸



山登り

神話や歴史秘話があり
絶景広がる山々が
まちを見守っています

34

足立山 あだちやま

北九州市小倉北区にあり、妙見山（512メートル）や戸ノ上山（518メートル）などと企救山地を形成し、北九州国定公園の一部に含まれる足立山（597メートル）。北九州市の中心部、小倉の市街地に近く、夜景のスポットとしても有名です。769年、和気清麻呂が大隅国へ配流される途中、追っ手により足を負傷したものの足立山の冷泉で治り、立てるようになったことから足立山と言われるようになったという伝説があります。麓にある福聚寺は、小倉藩主小笠原家の菩提寺です。

貫山 ぬきさん

貫山（712メートル）からカルスト台地が広がる平尾台へハイキングすれば爽快感が楽しめます。石灰岩が散らばるピナクル「羊群原」の景観は、まさに絶景。山に登り慣れている人もはまってしまうことも多いといえます。

宗像四塚連峰 むなかたよつづかれんぽう

岡垣町・宗像市にまたがる城山（369メートル）・金山（317メートル）・孔大寺山（499メートル）・湯川山（471メートル）を宗像四塚連峰といいます。湯川山山頂からは、岡垣町から芦屋町へと続く海岸線と「三里松原」、響灘が一望できます。登山口への途中に通る「ゆうれい坂」は、転がる空き缶が登っていくように見えるミステリーロードです。

福智山 ふくちやま

福岡県北九州市小倉南区、直方市、田川郡福智町に跨る福智山（900メートル）。平尾台や皿倉山同様に、北九州国定公園に含まれ、北九州市の最高峰として登山者に親しまれています。山頂からは、眼下に広がる市町村一帯をはじめ、関門・響灘・周防灘・平尾台・遠賀川、天気が良ければ、九重連峰・阿蘇連山・英彦山・三郡山など、見渡す限りの素晴らしい展望

を堪能できます。山麓の「白糸の滝」、「大塔の滝」、「七重の滝」や、ススキの季節はまた見事です。

六ヶ岳

直方市・宮若市・鞍手町の境に位置する六ヶ岳（339メートル）は、「鞍手富士」とも呼ばれ、朝日（旭）、天山、羽衣、高祖、崎門、出穂の6つのピークからなります。山麓の「六嶽神社」には、御祭神の宗像三女神が降臨したという神話が伝わります。山頂からの眺めは、筑前海、北九州市と下関市、直方市・田川市方面に英彦山も見渡せる大パノラマです。

求菩提山と犬ヶ岳

豊前市と築上町にまたがる、修験道の霊山、求菩提山（782メートル）の山中には、いくつもの岩窟や長く続く石段があり、特別な雰囲気があります。求菩提山の隣、犬ヶ岳（1130メートル）は、豊前市と大分県にまたがる、同じく修験道で栄えた山。春には天

然記念物のツクシシヤクナゲの群落、夏は恐淵の渓谷で天然のミストを浴び、秋には九州では珍しいブナ林の紅葉など、四季折々の自然豊かな表情が見られます。

香春岳

香春町にある、三つの峰が連なる香春岳（508メートル）。山全体が良質の石灰岩で、企業の採掘現場である一ノ岳（491メートル）、二ノ岳（468メートル）を除き、三ノ岳で登山が楽しめます。大小様々な石灰岩が露岩し、まるでアスレチックのよう。山頂からは山体を真横に切り取ったような一ノ岳の露天掘りや、発破の音など、採掘の様子が間近に見られます。不落の名城と讃えられた、「鬼ヶ城」があった一ノ岳は、戦国史上に残る歴史の山です。

山城跡

黒田官兵衛・長政親子と
宇都宮鎮房の戦いの舞台

35

天正14年（1586）、天下統一の歩みを進める関白豊臣秀吉は、九州で勢力を拡大する島津氏に対抗するべく、九州攻めへと乗り出します。その先鋒として九州に派遣されたのが、福岡藩祖であり、大河ドラマにも取り上げられた黒田官兵衛でした。官兵衛は毛利、小早川、吉川勢と手を組み豊前小倉城（北九州市）、宇留津城（築上町）・香春岳城（香春町）などを次々と攻め落とします。天正15年（1587）、秀吉は九州に上陸し、馬ヶ岳城（行橋市・みやこ町）に入り、二泊します。やがて、秀吉軍は島津方の秋月氏を降伏させ、官兵衛は豊臣秀吉とともに、日向（宮崎県）方面の島津軍を追い詰

め、やがて島津義久が薩摩川内で秀吉に謝罪し、九州攻めに終止符を打ちました。

平定後、官兵衛は豊前国6郡を与えられ、中津城（大分県中津市）を築いて居城とし、黒田家は、筑前に移るまでの13年間、同地を治めることとなります。

難攻不落の城井城 宇都宮鎮房の無念の最期

一方、この地を長く治めていたのが宇都宮鎮房でした。鎌倉時代に豊前国に入った一族は豊前宇都宮氏と呼ばれ、のちに城井氏を名のようになります。深い溪谷の城井谷（築上町）を拠点として、官兵衛が入国した時代までの400年にわたって豊前国を治めていました。秀吉は鎮房に伊予国（愛媛県）への転封を命じたといわれますが、先祖伝来の地に愛着を持つ鎮房はこれを拒否。官兵衛が豊前を留守にしている間に反乱を起こします。鎮房は怪力無双の人物で強弓の使い手であり、天然の要塞である城井城に立てこもって黒田軍に応戦。地の

利を活かした戦いにより黒田官兵衛・長政親子を苦しめます。谷を封鎖するなど、数カ月におよぶ持久戦となり、最終的にこれ以上の犠牲を出さないため鎮房が降伏し、和睦を受け入れました。

しかし、その後も緊張関係は続き、ついに長政が鎮房を、中津城での酒宴の席で謀殺したのです。残った宇都宮一族の多くが討ち取られ、滅亡します。

山城ごとに残る

黒田家二十四騎の物語

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いで長政が武勲をあげ、官兵衛・長政親子は筑前一国を与えられて同国へ移ることになります。このとき福岡城と同時に6つの出城を築きました。「筑前六端城」と呼ばれる国防の拠点で、その多くは黒田二十四騎が城主となっています。

黒田二十四騎は、官兵衛と長政の家臣から精鋭24人が後年選ばれたもので、その一人が名槍「日本号」を呑み獲った逸話で黒田節にも歌われた母里太兵衛で、鷹取城（直方市）を



上／御所ヶ岳山頂よりのぞむ馬ヶ岳
下右／宇都宮鎮房肖像（天徳寺 所蔵／写真提供 築上町教育委員会）
左／城井城表門



上右／ヤマツツジ咲く福智山
左／黒田二十四騎画像（北九州市立自然史・歴史博物館所蔵）
左ページ／福智山からみた鷹取城址

拝領します。参勤交代で江戸へ向かう途中、富士山を眺められる場所で「富士山よりも（鷹取城のある）福智山が高くて美しい」と自慢し、その後死ぬまで福智山が日本一だと言いつつと伝わります。

太兵衛は慶長11年（1606）、鷹取城から益富城（嘉麻市）に移りますが、益富城はもともと後藤又兵衛が拝領したものでした。黒田家の家臣として槍の使い手と豪勇をうたわれた又兵衛は、官兵衛の死後、長政とあわず、出奔（許可なく藩を抜ける）。一時期、行橋市にあった豊前細川家の御茶屋に匿われました。現在その場所は西福寺となっており、又兵衛ゆかりの膳が伝わっています。その後、大坂夏の陣で、壮絶な最期をとげます。

黒田家にまつわる城の数々は、今や跡しかありませんが、山頂の土塁や石垣、そこからの眺めに往時を偲ぶことができます。







馬ヶ岳より見る平成筑豊鉄道と紅葉

36

仏像

この地の安寧を
見守り続けてきた表情と様式
守り抜かれた物語

6世紀半ばに朝鮮半島の百濟より日本にもたらされた仏教。時代ごとに様式の異なる、さまざまな仏像がつくられてきました。「北の九州」には、実に多くの歴史ある仏像が残され、今も厚い信仰を集めています。

● 鞍手町／長谷寺

【木造十一面観音立像】

平安時代前期の作風を残して気品の漂う典雅美しいお姿の仏像です。流麗な衣文のひだや、荘厳な中に慈悲をたたえたお顔など、その見事な彫刻は、この地方の非凡な仏師の腕を偲ばせるとともに、当時の仏教文化の繁栄をうかがわせます。公開日指定有り。
(国指定重要文化財)





像高 211.2cm と大きな本像は、九州で特徴的に多用される一木造りの仏像です。現在は岩壁を背にする取蔵庫に安置されています。また、昔母乳の出が悪い母親がこの水でお粥を炊いて食べたところ、よく出るようになったという伝説が残されていて、別名「乳の観音」とも呼ばれる温かい像です。非公開（事前申請要）。（国指定重用文化財）

●豊前市／旧岩屋山泉水寺
【木造千手観音立像】



大興善寺の本尊である如意輪観音像は一面六臂の坐像で、現在は宝髻を失っていますが梶材の寄木造りで、玉眼を嵌入し色彩が施されています。面長な顔や大きな目鼻などからは南北朝時代の特色がみられ、また6本の手にはそれぞれ異なった持物や手印を示しています。公開日指定有り。

●北九州市／大興善寺
【木造如意輪観音坐像】



山門に立つ像高約 280cm の本像は桧材を用いた一木造りの仁王像です。頭部、体の肉付きともに丸みを帯びた静穏な作風と古式な技法から平安時代末期の作とされ、九州では最古、全国的にきわめて貴重な文化遺産と言えます。一般公開。

●豊前市／如法寺
【木造金剛力士立像】



檜材の寄木造りで玉眼を嵌入、表面の仕上げは黒漆塗り。「安阿弥陀」と呼ばれる快慶の優美な作風を受け継いでいる本像は、快慶の流れをくむ仏師が造ったものと言われています。昭和 39 年より行われた解体修理の際、背面裾先に発見された修理銘から修理仏師が久悦であることが確認されました。非公開。

●北九州市／宝典寺
【木造阿弥陀如来立像】



奈良時代に聖武天皇の御願を受けた行基によって創建されたと伝えられる清水寺の本堂に祀られた本像は像高 108cm の寄木造り。鎌倉時代に制作されたその像からは、頭部の豊かな装飾、理知的な表情、複雑な衣文や引き締まった肉体の表現などの特徴が見てとれます。一般公開（事前申請要）。

●宮若市／清水寺
【十一面観音菩薩坐像】



かつてこの地にあった法華寺という古刹の本尊像であったと考えられる像です。像高 114.0cm。針葉樹材の寄木造で、表面に漆箔を施し、玉眼を入れています。どっしりと安定したシルエットの正面観や、分厚い衣の表現などは、南北朝時代の特徴を反映していると考えられます。公開日指定有り。

●直方市／法華寺観音堂
【木造十一面観音坐像】



平安時代後期の作といわれる本像は、三体とも両腕を失い表面の摩耗も激しく歴史の流れを感じさせます。星霜に洗いぬかれてもなお、怒りをみなぎらせて力強く座す不動像に配して、両脇に立つ二童子の優雅な曲線の造形に、三身一体の調和の美しさがあります。一般公開。(国指定重要文化財)

●鞍手町／中山不動尊
【木造不動明王及び二童子像】



摩山の山懐にいだかれた上有木谷の地から発見された本像は榿材で作られ、両腕の肘までも本体と共木とした一木作りの如来の姿をした坐像です。目鼻立ちもしっかりと力強いですが、全体的に穏やかで鼻が高く顎を出した横顔など宇佐地方の仏像の特徴が見られ、平安時代後期に造られたものとされています。一般公開(事前申請要)。

●宮若市／上有木大日堂
【木造如来型坐像】



殿川ダム北岸の洞窟内にある御堂の中に安置されている、像高275cmの木造の仏像です。薬師如来坐像は左手に薬壺をのせ、人々の病気をいやすとされています。威厳のある面持ちと力強く古式な耳や体の肉づきなどから平安時代末期から鎌倉時代に造られたと考えられます。一般公開。

●荏田町／宝蔵院相円寺
【木造薬師如来坐像】



像高62.4cmの三面六臂像である本像は頭頂に馬頭を戴き、真面は焰髪をそばだてた忿怒相です。作者の仏師である「祐尊」は詳細不明ですが、この複雑な像を的確に造形化しており、高い技術力を有した仏師であったことが伺えます。公開日指定有り。

●岡垣町／海蔵寺
【木造馬頭観音坐像】



八幡神という神様でありながら、頭を丸め袈裟を着た僧形をしているのは、八幡神が最も仏教と密接な関係を持った神であった為とされています。ややずんぐりとした体型や衣文のおおらかな表現などは室町時代の像の特徴でもあります。一般公開。

●みやこ町／生立八幡宮
【木造僧形八幡神坐像】

豊前の国府があった みやこ町

みやこ町の「豊前国分寺」は、奈良時代、聖武天皇の勅願により、仏教による国家鎮護のため全国の国ごとに建てられた国立寺院のひとつです。天正年間（1573～1592）に大友宗麟の兵火にあい、すべての伽藍が焼失しますが、その後、小笠原藩の助力により、江戸時代半ばには、塔をのぞいてほぼ復興します。「三重塔」は、明治29年（1896）に再建されたもの。豊前の国府がおかれていた、この地の栄華を今に伝えています。







幻想的な撮影スポットとして名を馳せる宮若市の清水寺あたり
雲海の中を走るのは山陽新幹線
この雲海の中に豊かな農業と、自動車関連企業 50 社もの集積がある

工芸復活

名を馳せた織物

そして茶道具

途絶えた伝統を今再び

小倉織

「北の九州」の工芸には、現代における名だたる名品のルーツがあります。将軍や茶人にも愛用されながら、残念なことに一時期途絶えたその伝統を、今に蘇らせる地元的情熱。工芸復活の物語です。

江戸時代に豊前小倉藩の特産物となった「小倉織」は、「槍をも通さぬ小倉織」といわれるほど丈夫でしなやかな質感の木綿布。かの徳川家康も愛用し、小笠原騒動の折、藩の重臣が襲われた際には刺客の槍の穂先が小倉織の袴の裾を滑ったため、命拾いしたという逸話もあります。発色が美しく立体感のあるたて縞は、良質な袴や帯地として全国で珍重され、小倉藩の財政を支えました。そうして、350年以上も名を馳せながら、昭和初期に途絶えてしまった小倉織ですが、地元在住の染織家が、端切れをもとに試行錯誤を繰り返し、昭和59年、その復元に成功します。さらに今の時代にあったバッグなどの小物やインテリアにも用いられ、現代に蘇った名品です。

かずら筆

日本の書家十傑の一人とされ、幕末から明治にかけて活躍した下枝董村。小笠原家に仕えたのち、自然豊かな場所ですらしたいと、豊前国仲津郡木井馬場村（現在ののみやこ町）に終の棲家を構えます。毎朝3000字書くことを日課とした董村が使っていたのが「かずら筆」。自生しているかずらを木槌でたたき、繊維をほぐして筆とする世界でたった一つの品。大胆で独特の味わいのある書体になると全国の書家に人気です。



古高取内ヶ磯窯跡出土品（直方市教育委員会蔵）



今はダム底に眠る内ヶ磯窯跡

高取焼

福岡藩の御用窯として知られる「高取焼」。2代藩主黒田忠之は、茶人小堀遠州と交流を深め、遠州好みの茶器を多く焼かせた縁で、遠州七窯の一つに数えられています。

その発祥の地は、直方市の鷹取山麓です。黒田長政が朝鮮半島から連れ帰った陶工・八山（日本名 高取八蔵）が、慶長11年（1606）に鷹取山麓の宅間に最初の窯を開きます。その後、内ヶ磯に移り、本格的な窯を造りました。発掘により46・5メートルあったとされる登り窯跡は、今は福智山ダムの底に沈んでいます。直方市にあった時代の高取焼は「古高取」と呼ばれ、多彩な釉薬をほどこした野趣あふれる作風が特徴。直方市には、今も高取焼を受け継ぐ窯元が営んでいます。



上野焼香春徹山窯

あがのやきかわらてつざんがま 上野焼香春徹山窯

高取焼と同じく、遠州七窯の一つに数えられた豊前国上野焼です。小倉藩の茶匠、小笠原家茶道古流11代目、古市自得齋が愛用した上野焼の分流、「田香焼」の窯跡に窯を再興しました。特徴として絵付けを一切行わず、釉薬だけを使って、窯の力で色模様の千変万化を表現しています。上野焼の伝統を受け継ぎ、茶陶から日用食器まで幅広く作っています。



右上／芦屋釜の里
 下／浜松図真形釜（はまつずしんなりかま）
 現代 八木孝弘作（重要文化財復元品・芦屋釜の里蔵）
 左上／芦屋葎地真形釜（あしやあられじしんなりがま）
 室町時代（芦屋釜の里蔵）
 下／釜の鑄込みの風景

芦屋釜

芦屋釜は、南北朝時代頃から筑前国
 芦屋津金屋あしやづかなやで活動した鑄物師いもじたちに
 よって造られた鑄鉄製の茶の湯釜で
 す。滑らかな手触りと「真形」とよば
 れる端正な形、胴部の優美な文様は京
 でいたく好まれ、室町時代の文化人、
 一条兼良いちじょうかねら作と伝わる『尺素往来せきそわらい』には、
 「鐘子かねす（釜）」は芦屋」と記されています。
 国の重要文化財に指定されている茶の
 湯釜9点のうち8点が芦屋釜です。
 京の貴人への献上の記録が数多く登場
 する芦屋釜も、芦屋鑄物師の絶大な庇
 護者であった戦国大名の大内氏の滅亡
 によって、衰退の一途をたどり、慶長
 5年（1600）、高倉神社（遠賀郡
 岡垣町）に納められた梵鐘を最後に、
 芦屋鑄物師の作例はみられなくなりま
 した。
 芦屋町ではその復興を目指して鑄物師
 を育成。現在、復元技術を身につけた
 鑄物師が活躍しています。



銅造毘沙門天立像（どうぞうびしゃもんでんりゅうぞう）
室町時代 大江貞盛作（県指定文化財・高倉神社蔵（岡垣町））
芦屋鋳物師の手による現存唯一の仏像
現在詳細調査のため、九州国立博物館に移動
平成 32 年に高倉神社に復帰予定



神楽

五穀豊穰や

健やかなる

無病息災を願う

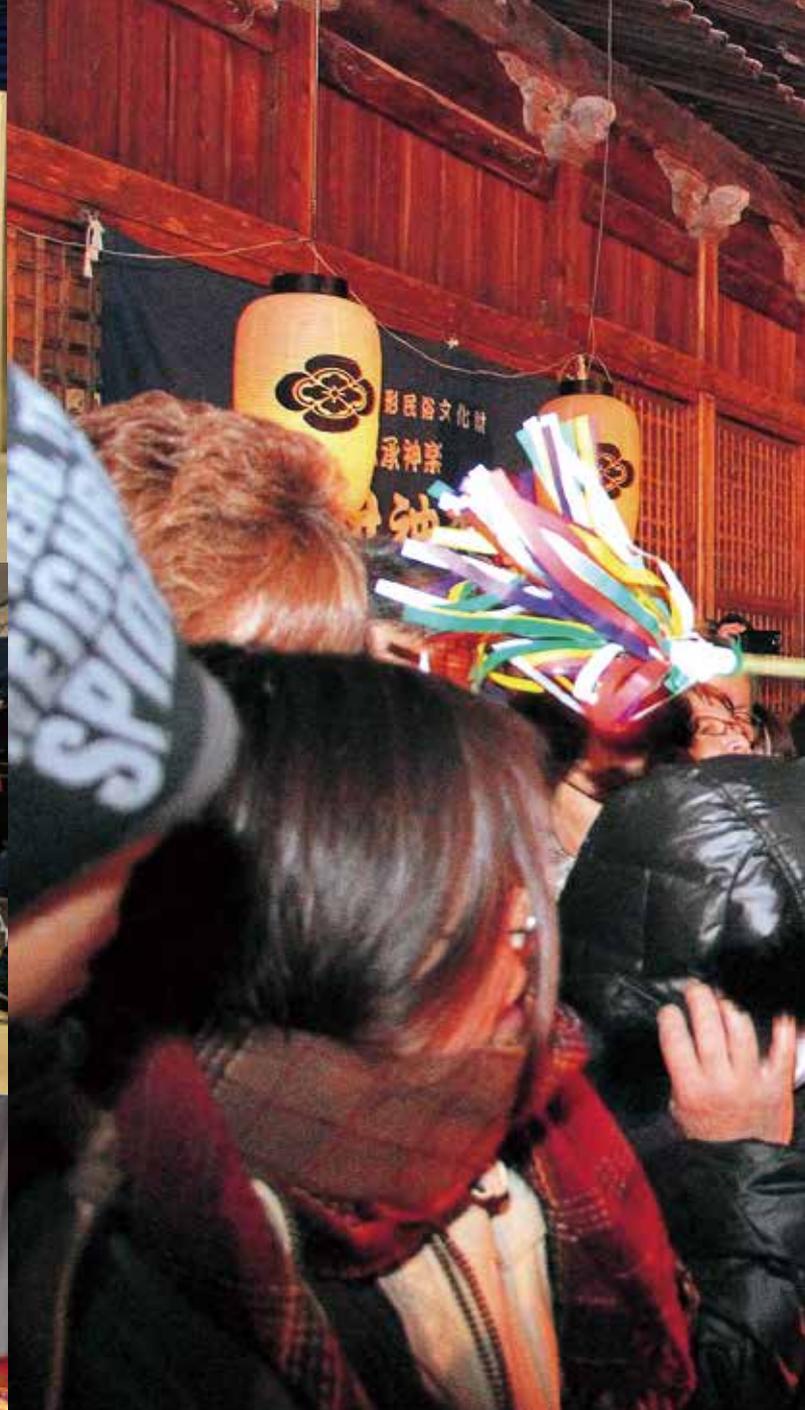
38

「神楽」の語源は神が降臨する場所を表す「神座」と言われています。

神聖な場所に神を迎えて祈りを捧げ、感謝を表すために奉納するのが神楽です。豊前海、周防灘に面する京築地域は、行橋市、豊前市、苅田町、みやこ町、上毛町、築上町などからなり、今なお30を超える神楽団体が現存する神楽の里。例年4月下旬から5月上旬、9月下旬から年末年始には、それぞれの里の神社に神楽のシーズンを告げる幟旗がはためき、笛や太鼓の音が響き渡ります。

願いをこめ
神を舞う

京築地域の神楽団体の多くは古くからこの地に伝わる「豊前岩戸神楽」（豊前神楽）を継承し、その構成は、儀式としての神事性の強い「式神楽」と、氏子の各家から依頼され演じられる「奉納神楽」（あげ神楽）に大別されます。中でも記紀神話の天孫降臨の場面を演じるという『駄仙（御先）神楽』



上/大村神楽(豊前市)
左上より/岩屋神楽(豊前市) 鑑畑神楽(みやこ町)
稲童神楽(行橋市) 天神かぐら(荻田町)

が代表的な演目。躍動感あふれる舞と身のこなし、表情豊かな面やきらびやかな衣装も見る者を非日常の世界へと誘います。奉納行事であるため荘厳なイメージが先行する神楽ですが、演目『大蛇退治』をはじめ、なかにはユーモラスな所作が観客の笑いを誘う場面もあります。



「豊前岩戸神楽」のなかでも、他地域では見られない最も特徴的な演目が『湯立神楽』です。一般的に湯立神楽は、お湯をふりまき潔斎をしますが、豊前神楽では、高さ10メートルほどもある柱（鉦）

に登り、呪具を投げ下ろし、アクロバティックな所作を伴う演目で、最後には火渡りも行うなど豊前修験道の影響を色濃く受けた神楽です。平成26年には、築上町の求菩提六峰に近い寒田地区の「寒

田神楽講」で13年ぶりに奉納されたことでも話題になりました。京築地域で奉納される神楽のスケジュールは、サイト「京築まるごとナビ」で随時紹介されています。そのほか、例年11月に複数地域の

神楽が一同に会する「京築神楽の里フェスティバル」も気軽に神楽が楽しめるイベントとして人気です。



黒土神楽（豊前市）

演目のひとつ『湯立神楽』は、陰と陽（天と地）の調和・融合・交合を祈る奉納神楽のひとつ。湯を沸かした釜の回りで鬼と幣方が舞う。やがて鬼は柱に登り、柱の先端の大幡を切り落とし、アクロバティックに、地面へと降り立つ。その後の裸足での火渡りなど、修験道の影響を色濃く受け継いでいる





右ページ上／岩丸神楽（築上町）

下／友枝神楽の御先（みさき）

「古事記」「日本書紀」の天孫降臨を神楽にした演目（上毛町）

上／平成16年から、神楽の継承のために活動を始めた「成恒子供神楽」

「たくさんの人に育てられ神楽が舞えることに感謝し、舞う人も見る人も、もっと神楽が好きになって欲しい」と願い練習に励んでいる。（上毛町）

修験道

39

山とともに生き

肉体の極限から山の力を得た山伏たち

修験道は、今も求菩提の山と祭りとともに

修験道の霊山

求菩提山

豊前市から築上町にかけてそびえる標高782メートルの求菩提山。その周辺は修験道文化が、今も色濃く残っています。

修験道は古くからの山岳信仰に中国から渡来した仏教が習合し、さらに道教や密教の影響を強く受けながら成立した日本独自の宗教。求菩提山は英彦山とともに鎮西修験道の一大拠点として、大きな役割を果たしました。

古代から信仰の対象であった求菩提山は、526年に猛覚魔下仙によって開山され、修験道の開祖とされる役行者も8世紀初めに入山したと

伝わります。

本格的に修験の場となるのは平安末期の12世紀中頃。天台宗の僧・頼巖が堂社の修復や多宝塔の建立を行い、自ら一千日の大行に挑みました。弟子たちと銅板法華経を勧進するなど、求菩提山中興の祖となります。このとき勧進された「銅板法華経」33枚と、それを納めた「銅筥」は国宝となっています。

極限から獲得する霊力

修験とは「修行得験」という言葉から生まれ、修行の果てに験を得ることを意味しています。

そのため山伏（修験者）たちは洞窟にこもっての不眠断食や、険しい山

中を何日間も歩く「峰入り」という修行をしました。最も厳しい行は、千日もの間一人で山にこもる千日行。こうした常人には考えられない修行を通し、山伏は霊力を持つと考えられるようになり、その化身として山伏の装束をまとったカラス天狗も誕生します。求菩提には「次郎坊」という天狗がいるとされます。

また険しい火山地形に起因して洞窟が多く、銅板法華経が納められている「胎蔵窟（普賢窟）」をはじめとした五窟には、仏像が安置され、また「岩洞窟」といわれる窟には、天井に飛天が優雅に舞う様が描かれています。山伏たちは、窟にこもり自らを肉体の極限にさらすことによって、法力を得、加持祈禱を行うこと



天狗曼荼羅図
江戸時代（豊前市指定有形文化財・求菩提資料館蔵）
求菩提山杉谷の岩屋坊に代々伝えられていた八天狗と守護神を描いた絵図

によって人びとを救おうと考えたのでした。

頼巖の復興以降、求菩提山は「一山五百坊」といわれるほどの隆盛を誇ります。山伏だけでなく、その妻や子どもを含めて多くの人が山で生活していました。江戸時代に入ると山伏たちは檀家を持つようになり、民間祈禱師としての役割を果たします。行の合間に檀家を回って加持祈禱をしたほか、山中の薬草や鉱物などで薬をつくりました。お茶の栽培も薬として修験者によってもたらされ、小倉藩に御用茶として納められていました。求菩提山には、今も茶畑が残っています。

山での暮らし終焉の時

しかし、明治元年（1868）、明治政府による神仏分離令と、それともなう廃仏毀釈、さらには明治5年（1872）の修験道廃止令によって、求菩提修験道は、終焉の時を迎えます。

山からは多くの貴重なものが失われましたが、かろうじて難を逃れたものが、求菩提山中や豊前市の「求菩

提資料館」に展示されています。

求菩提資料館は、全国でも例をみないほど、山伏たちの暮らしをうかがうことのできる品々を奇跡的に残す場所です。

修験道の祭礼「松会」まつえ

里の人びととかかわりをもっていた山伏文化は、祭礼にも影響を与えました。

その象徴が五穀豊穡を祈願する「お田植祭」です。春の種まきから秋の収穫までの農作業の所作が、神歌とともに繰り広げられます。修験道が盛んだった山々で行われることが多い豊作祈願の祭り、求菩提でも護国寺、現在の国玉神社で行われています。

もともとは修験道の「松会」という祭礼で、「神幸」、「お田植祭」、「幣切り」の3つの行事で構成されますが、ほとんどの山ではその一部であるお田植祭しか受け継がれず、今なお残る最も古い形は、荇田町の普智山等覚寺、現在の白山多賀神社で行われる等覚寺の松会です。高い松柱の上でのクライマックスの幣切り

が見られるのは全国でここだけとなります。

自然への感謝と畏れを忘れず、その力を身体に取り込み、ありがたさ、活かし方を麓の里人に伝えてきた山伏たち。求菩提山は、今の時代に失われつつある感覚を、修験道の歴史と遺跡を目の前にしつつ、呼び覚ましてくれる山です。



等覚寺の松会（国指定重要無形民俗文化財）

左／松柱づくり

左ページ／日本刀で御幣の竹串を切り落とす「幣切り」



農の実り

棚田、平野の水田

水と大地が育む

北の九州の美味しいお米です

40



上／彼岸花咲く苧田町の等覚寺の棚田
下／遠賀町産米「夢れんげ」の田んぼ

平尾台の北端・塔ヶ峰をおおぐ北九州市小倉南区の井手浦、苧田町の等覚寺、上毛町の西友枝と、山が平野に迫る地形を、先人たちは開墾し、石垣を積みあげ、棚田をつくつてきました。

水を蓄え、その水がゆっくりと河川に戻ったり、浸透してゆく灌漑機能もある棚田ですが、その農作業は重い条件。しかし、その甲斐あって、朝夕の気温差と、山水で、ゆっくりと熟し、ことのほか美味しいお米を育みます。

春、棚田に水がはいると、鏡の階段が現れます。やがて、黄金の稲穂が実ると、集落によっては彼岸花が棚田の畦を彩り、稲刈りが始まると、竿にかけて天日に干す「掛け干し」の風景もみられます。

数百年と受け継がれる、美しき農業遺産の風景です。

れんげ咲く田んぼ

「北の九州」の春の風物詩のひとつに、田んぼ一面のれんげの花の風景があります。れんげは、花が終わると田んぼにすき込まれるもので、地力があがり、秋には黄金色の稲穂をたわわに実らせる自然の肥料となります。昔ながらの、手間暇をかけた、米づくりです。

遠賀川下流の平野部に位置する遠賀町では、町をあげて「夢れんげ」と名付けた、減農薬、減化学肥料の米づくりに取り組んでいます。山々の水を集めた遠賀川とれんげの恵みを受けた肥沃な大地が育む、美味しいお米です。



稲作伝播の証となった 遠賀川式土器

数々の美味しいブランド米がある「北の九州」。その歴史を遡ると、古代史の中に稲作に関わる重要な史跡が多く、市や町の歴史資料館には、興味深い出土品も数多く展示されています。

水巻町の「立屋敷遺跡」は、昭和6年に発見された弥生時代の集落遺跡です。文様のある弥生式土器は、九州ではこの立屋敷遺跡で初めて発見

され、当時の学界の注目を集め、型式名として「遠賀川式土器」と名付けられました。遺跡からは、農具類も数多く出土しています。

その後、これと特徴を同じくする土器が、九州から太平洋側では伊勢湾沿岸まで、日本海側では若狭湾沿岸までの西日本全域におよぶことがわかりました。遠賀川式土器が初期の水田稲作の西から東への伝播の指標とされるようになったのです。豊かに実る稲穂の風景にも、古代の浪漫が潜んでいます。



遠賀川式土器（水巻町歴史資料館提供）





福岡県の中で唯一、「町」を「ちょう」と発音する遠賀町（おんがちょう）。JR 遠賀川駅の北側には閑静な住宅街があり、南側には遠賀川の恵みを受けた肥沃な大地に美しい田園風景が広がっている



在来種と新品種
温故知新の農業

野菜・山菜



合馬たけのこ^{おうま}

全国有数の竹林面積を誇る北九州市の合馬地区で生産される孟宗竹の筍。竹林に粘土質の赤土を敷き詰め、有機肥料を与えるなどの手間暇をかけてできた、アクが少なく柔らかかな食感の筍は、関西の料亭から指名される旬の逸品です。



若松水切トマト

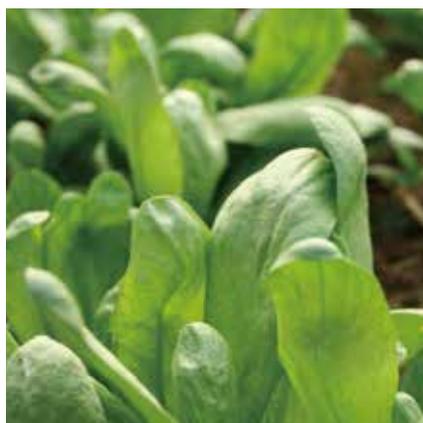
北九州市若松区で生産される高糖度トマト。その生命力を最大限に引き出すため、枯れる寸前まで水やりを減らして栽培すると、濃厚で凝縮された味のトマトとなります。生育期間は通常の場合の倍という、手間暇かけた逸品です。



太古に形成された石灰岩からなる大地に、関門海峡から吹く潮風。川の水は、ミネラルにあふれ、野菜の底力となっています。土と水が、つくり手のさらに強い味方となって、香り、食感、滋味、栄養豊富な味わいとなって現れます。受け継ぐ在来種、挑戦する新たな品種。日々欠かせない、身体喜ぶ野菜が、たくさんある「北の九州」です。

大葉しゅんぎく

北九州市で栽培される大葉しゅんぎくは、在来種の突然変異を選抜し品種改良したもの。葉先が丸く、生で食べても鍋でも。冬は「鍋旬ぎく」、春は「サラダ旬ぎく」の名で販売され、ビタミン、カロチン、カルシウムが豊富です。



スイートコーン

京築地域はスイートコーンの栽培が盛んです。トウモロコシより糖分が高く、生でかじると、まるでフルーツのような甘さと食感のスイートコーン。蒸すと、甘みが一層増します。旬は、5月から6月。夏の訪れを告げる味覚です。





水巻でかにんにく

遠賀川の肥沃な土壌に恵まれた水巻町で人気を誇る、普通のんにくの5倍ほどもあるでかにんにく。味はまろやかで、まるごと揚げるとほくほく。気になる匂いは、ほのかです。夏を乗り切る強い味方の元気野菜です。



勝山ねぎ

みやこ町の勝山ねぎは、県を代表する特産品にもなっている、香り高くやわらかい青ねぎ。カルスト台地・平尾台の麓で、ネギ栽培に欠かせない土壌消毒を、薬剤を使わず熱湯で行い、安心安全の栽培に取り組んでいます。



若松潮風®キヤベツ

北九州市若松区は西日本有数の冬キヤベツ産地であり、国の指定産地です。畑には玄界灘の潮風が絶えず吹きつけ、豊前海一粒かきの殻を使った石灰肥料も施されることにより、ミネラルが豊富で甘みが強いキヤベツとなります。

黒大豆クロダマル

黒大豆「クロダマル」は、大粒品種で光沢があり、アントシアニンなどの量が多く、抗酸化作用が高いのが特徴です。小竹町などで生産され、黒という色が、かつて炭鉱の町として栄えたイメージを伝えています。



花わさび・葉わさび

みやこ町の山間地では、植林の間伐地を利用して葉わさびの栽培に取り組んでいます。3月の花茎の花わさび、4月から5月の葉わさびとも、さわやかな香りとピリッとした辛味が春の味。山菜の中でもひと際高い人気です。





芦屋町の赤しそ「芳香しそ」の畑



桜色の赤身とサシ 北九州育ちの 「小倉牛」

平尾台を背に豊かな水と緑に囲まれ、大切に育てられた黒毛和牛。そのなかでも、厳しい肉質検査により選抜かれ年間100頭ほどの牛だけに「小倉牛」の名が与えられます。桜色した美しい赤身に入ったサシと艶。北九州市内のみの販売にもこだわった、希少価値あるお肉です。

42 肉

肉質と甘みのある脂の味わいを決めるこだわりの飼料はもちろんのこと、ミネラルたっぷりの水で育ち、高い評価を受けている各地のブランド牛。

獣害駆除から始まったジビエの取り組みも、今やブームに。豊前市やみやこ町では、食べやすいようにカットされ、真空パックされたジビエを、道の駅などで手軽に買ったり、お取り寄せすることもできます。

循環農業による

地米やおからで育つ

「宮若牛」

宮若市の循環型農業に取り組む牧場で、豊かな水と、地元産の飼育米・おから・稲わら等で育った「宮若牛」。旨みあふれる赤身とサシの甘み。平成17年6月には「第9回全国草地畜産コンクール」で農林水産省生産局長賞を受賞しました。



一度食べると

奥深さにはまる

ジビエの世界

「ジビエ」とは、天然の野生鳥獣の肉のこと。身体が温まることから、江戸時代には猪を食べることは「菜食い」と呼ばれていたほどで、健康志向からか、近年、ジビエブームです。みやこ町では、有害鳥獣である猪・鹿を捕獲した後、いち早く町内にある加工施設で処理・加工したものを「みやこ肉」として販売するなど、京築地域はジビエ文化の発信地となっています。



歴史ある産地ごろい
観光フルーツ狩りもあります

フルーツ

43

年に一度の実りなれど、フルーツがない季節はない「北の九州」。観光農園も多く、加工品も人気です。初の栽培への挑戦や、新品種発祥の地の歴史。そして、今では貴重となった知る人ぞ知る品種にも出会えるフルーツ王国です。

豊かな品種の食べ比べをぜひ
もも

福岡県で最初に栽培に挑戦したのが行橋市の新田原地域。「あかつき」、「なつおとめ」、「なつこ」など、品種を食べ比べしては。



一世紀の歴史あり

びわ

「北の九州」の中でも、岡垣町は樹齢100年を超える木もあるびわの産地。主な品種は、甘みが濃い「茂木」と大玉の「湯川」。ふくよかな味わいです。



福智山の水系に育まれて

梨

主に直方市の福智山の麓に広がる梨園。品種も豊富で、両手でかかえるほどの大玉も。夏の暑さを忘れるみずみずしい甘みです。



珍しい品種の直売もあります

ぶどう

鞍手町の「鞍手ぶどう」、岡垣町の「漢方巨峰」、直方市などが栽培が盛んで、巨峰狩りもできます。珍しい高級品種の直売も人気です。



糖度を誇るとよみつひめ

いちじく

「北の九州」は、歴史あるいちじくの産地。中でも、行橋市生まれの「とよみつひめ」は緻密な食感と、豊かな甘みが注目の品種です。



岡垣町の漢方巨峰狩り
左ページ上下／小竹町の観光ブルーベリー園



香り高い大玉

ゆず

豊前市の山間部に広がる棚田で育った「豊前棚田ゆず」。寒暖の差が大きいことから香り高く、加工原料としても人気のブランドです。



周防灘の潮風に吹かれて

みかん

周防灘に面する市や町では、柑橘類の栽培が盛ん。潮風に吹かれたミネラル分たっぷりのみかんは甘みと酸味のバランスのいい味わい。



レモンでまちおこし

レモン

上毛町では、新たな町の特産品として、無農薬レモンの栽培に取り組んでいます。まるごと安心して使える国産レモンとして、人気を呼んでいます。



藩献上の幻の渋柿

川底柿

「川底柿」は、小倉藩主にも献上された上毛町産の渋柿。希少な在来種で「あおし」という技で渋抜きすると、極上の甘みが生まれます。



観光農園もあります

あまおう

「あかい、まるい、おっきい、うまい」の頭文字をとった、大人気の福岡のブランドいちご「あまおう」。「北の九州」でも栽培が盛んです。

